

令和6年度卒業証書授与式 学校長式辞

例年になく厳しかった冬の寒さも少し和らぎはじめ、金華山の緑や長良川の水面にも春の兆しを感じられる今日のこの良き日に、本校PTA会長 大野幹根様、同窓会会長 篠田典子様をはじめ、多数のご来賓、保護者の皆様にご臨席を賜り、令和6年度岐阜県立岐阜北高等学校の卒業証書授与式を挙げていただきますことを、心より感謝申し上げます。

只今、卒業証書を授与しました351名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、どのような思いでこの時を迎えているのでしょうか。3年前の入学式、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が流行中、マスク着用で参加し、これから始まる高校生活に期待と不安を抱きながら本校での第一歩を踏み出されました。高校における学習の質の高さと量の多さに戸惑いながら、勉学に、部活動に、学校行事に、無我夢中で取り組まれてきたのではないのでしょうか。時には悩み、時には不安になり、ご家族の方を心配させたこともあったかもしれません。しかし、皆さんは立派に成長されました。

印象にあるのは、3年生の学校祭です。体育館が使えないという過去に例のない状況での開催となり、マニュアルがない中で、如何にしてこの状況を楽しみに変えるかとアイデアを出し合い、PTAや同窓会に支援を頂きながら実現した仮設ステージや教室等で思う存分力を発揮されました。そんな3年生の皆さんが率先して動く姿に、自分たちの手で北高祭を成功させようとする強い思いとリーダーシップを感じました。結果、これもまた過去に例を見ない、思い出深い北高祭となりました。

また、日暮れが早くなった初冬の放課後、大会議室や赤本部屋で一心不乱に勉強している3年生諸君の姿に皆さんの志の高さを感じました。私は、そんな皆さんの姿を見るにつけ、岐阜北高校の生徒に誇りを感じます。皆さんの3年間のたゆまぬ努力に対し心より敬意を表します。

さて、皆さんがこれから経験する新しい時代は、どのような時代になるのでしょうか。

日本は少子高齢化がさらに進み、社会構造が大きく変化し、生産年齢人口の割合が急激に減少していくでしょう。また、その生産性を担保するかのようにAIなどの科学技術が急速に発展し、ソサイエティー5.0の社会が具現化していけば、今ある職種の中で消えていく職種もあることは決して驚くことではない時代になると思われます。一方、世界に目を向ければ、戦争、紛争などが後を絶ちません。さらに、気候変動、生物多様性の喪失、海洋汚染、食糧難、そしてコロナウイルスをはじめとした得体のしれない感染症などの課題が山積しております。

皆さんがこれから船出する新しい時代は、このような課題、いわば正解のない難題を解決していく資質と能力が必要になります。でも何も心配することはありません。皆さんはそのために、この3年間で本校のスクールポリシーでもある「荒野を拓く探究人」たる人間性を育んできたのです。

そんな前途有望な皆さんに私から贈る言葉として一つ述べたいと思います。それは、たとえ不確実な未来で、未開拓の新しい分野であってもリスクを恐れず、先陣を切って挑戦するファーストペンギンになってほしいということです。

天敵がいるかわからない海に果敢に飛び込む最初のペンギンのように、不確実な未来に

直面した際に、そのリスクを恐れず自らの可能性を信じ、様々なことに率先してチャレンジしてほしいと願っています。

新たな旅立ちの時を迎えた皆さんは、これからの将来に様々な夢を描き、目的を持っていることでしょう。その夢や目的を実現する道筋は、決して一つではありません。時には回り道することもあります。時には失敗や挫折を経験することもあるかもしれません。大切なことは失敗したときにそれをどのように受け止め、その経験からいかに学ぶかだと思います。その時々には試行錯誤し、経験から学び、挑戦し続けることできっと新たな道が拓けてくるはずです。

さあ、卒業生の皆さん、旅立ちの時です。皆さんの未来は可能性に満ちています。皆さんが新しい時代に向けて、自分にしかない道を切り拓かれることを心より祈っています。

最後に、ご臨席賜りました保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この3年間、様々なことがあったこととご推察します。嬉しい時には共に喜び、自信を失いかけた時には励まし、時にはともに涙されたこともあったかもしれません。そのようにしてお子様の成長を支えてこられたご家族の深い愛情と絆に敬意を表しますとともに、本校の教育活動に対し、ご理解とご支援を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。有難うございました。

卒業生の皆さんの新しい時代におけるご活躍とご多幸を、今一度、心より祈念申し上げます。式辞とします。

令和 7年 3月 1日

岐阜県立岐阜北高等学校
校長 上 田 和 伸